

# 佐藤訪米阻止へ向けて――

## 一、はじめに

全市民の尊友諸君、院生教職員の皆さん、日本資本家の皆さんには、この問題の代表者は、沖縄問題の帝國主義的解決と日本安保条約の自動延長をめざして、17日羽田を出発する。70年代比アジアの帝國主義支配を強く述べて出発する佐藤資本家政権は、政府に対して私達はいかなる手を組むしなければならぬかのだろうか？

## 二、戦後アジアと現代世界情勢

かつて大戦後、20数年を経た今日まで、アジアは世界の反植民地運動の中心であった。1949年中の革命斗争は、中国内戦は、政治的に不利な状況の下で圧迫されようとして1951年の朝鮮戦争、更に続くインドネシア、東南アフリカの反植民地民族解放斗争など、しかしアジアの一の

民族解放斗争は一方における帝國主義の軍事力とソ連ヨリ、前述をほかっていた。同年正月のテト攻勢はベトキニジメとする社会主義の平和共存政策のために、民ナムにふりの力関係が大内にかわったことを意味して、ベトナム民族解放社公主と革命へと向う永々革命の進路を断ち切った。今や解放戦線が優位に立つてゐることは誰の目に白い、民族的ワク内に押しつぶされた。シーカーナン協定田川だった。既く米国内の反戦運動と黒人斗争、ドルはその最も象徴的なものである。しかしながら、史の永ホーの急底は帝國主義内に移りとも大衆の斗争發展の論理は、反祖民地民族解放斗争が民族主義のワードが出来てゐることを意味してた。45年

ケ内にとどまる二とを許さない。インダのネル、インダ革命は先進日本の所外者決して資本主義下では安住し日本シナのスカルノを筆頭とする民族主義者が没落し始はないことを証明した。更にあの空襲のビストロ松原をテコ入れし、シーカーナン協定を破りベトナム民族、いふことも証明された。更に9月8月はソ連等の社会主義者とその帝國主義との対立を強化せしめられた。ゴマの民衆は再び自らの解放の道をみ始めた。ゴマのソシテイを示唆した。しかし、一坦押すれることを否否したベトナムのソシテイ内にも官僚体制下での屈辱的生産と並行し、新たに結集せしめた。そしてベトナムのテコ入れしたゴマは、今日一時的に、この永久发展の動きを抑えることに成功政権の前に横る始めや帝國主義者としての本能成功していふ。そしてベトナムのゴマも、ソリ和平交渉とトナムへの軍隊撤退へと、65年からの北爆によりベトナムへ到着する。しかしベトナムの北邊停止と臨時革命政府の解説斗争を難堪していふ。そして一時にその王位得たのは解放戦線のゴマが不断に前進していることを意味する事を力づめて解放戦線の力を抑えることに成功しているし、更に

した。よりして60年から公然と初め、た中ソ対立や東にインドネシアに於ける反革命へインドネシア反革命の内閣、中国文化大革命の最初は、一足反革命主義内部の勝利、中国文化大革命の最初は、一足反革命主義内部内閣とも数十万人かわすか數ヵ月の内に終った。

の勝利、中国文化大革命の最初は、一足反革命主義内部内閣とも数十万人かわすか數ヵ月の内に終った。

11/12

イタリアの政府危機、中東アジアの危機、米の反戦斗争の聖トロントの核爆発、本土のみ反対のギャンドーンは、再度の上昇は、ベトナムを軸とする世界革命の永久発展がこの路線に沿ってなされ、いるのである。沖縄の永々市国主義者や、社会主義国の官僚の下に完全に押し戻されて基地体制とは、アジアに於ける弾圧の要として、沖縄はいよいよことを示している。何よりも圧迫的な軍事力を誇る基地があるので、これを理解しなければならぬ。本土において私達は今だこの沖縄の斗争に対しても、沖縄が、斗争して負けなかつということは、我々が八分展開していよいよして社共の革新勢力はこの斗争に何よりも力強いはひましとするであろう。

### 三、戦後20数年を経た日本の位置と我々の斗争。

敗戦で帝国主義の一切の力を失つた日本の資本家は、活動に反対し、名目上保有碎、沖縄の勝利、佐ト並戦後アメリカの經濟援助によりその資本主義的能力を回復本阻止へ向け、共にございましょう。(受取)

て自らの体制を保つため、その犠牲として沖縄をアメリカに歸上した。以来朝鮮併合から持ち直し始めた日本の資本家は国内に於ける合理化とアジアに於ける相対的進出をア

メリカのヒュンの下に展開してきた。60年安保条約から65年

日韓条約を是た今日、政府資本家は以後韓国、台湾を圧倒

的に日本の經濟圏に組み込み、更にインドネシア、フィリ

ピン、ベトナムへと多くことをしめ、彼等の進出は、民族

解放、社会主義を目指す斗争を行つてゐるアジアの民衆と不斷に衝突せざるを得ない。そして今日末業の重化学工業

七と吉恩オヌ位を譲る國民首領の經濟的能力をもつてゐる日本資本家は現在、アジアの社會主義圏の拡大のため、更に強くまた市場を開拓するため即ちアジアに於ける帝

国主義支配(アジア民族への抑圧)に向け本格的な宣傳体制の確立をめざしてゐる。それは現在又バブルから後退し始めているイギリス、アメリカに代わりかつ、彼らから任せられてアジアに登場しようとしている。あの田中氏は付よ

りもその反革命的能力も確保するために準備をとっているのだ。しかし戦後日本の資本主義的發展のため、一切の犠牲

とされていた沖縄民衆はベトナム民族解放戦線の手にこゝぎづけられ、彼らの犠牲を拒否して斗争始めた。祖国復帰

の基地奪去、安保米約鹿島のアーチがんは何よりも沖縄の民衆がはつきりとアジアの反帝主義民族解放社會主義の運動に参加しつつあることを意味している。しかしま

メリカ帝国主義と日本帝国主義は、沖縄民衆の反米主義と彼らの底にある日本復帰への願望を利用しく、日本資本家が米日両帝国主義の延命のため沖縄の基地をアメリカから奪りして基地を水入化しようとしているのである。

14日 教養芝生会(12時半より)

反戦ペ平連角町集会(6時)

13日 早朝理事会前集会(6時)

沖縄討論集会 (午後1時)

学内集会(教養芝生3時)

角町集会(6時)

14日 鹿頭カンパ(3時半 工1525)

15日 政治集会 (工15 工階教教室)

16日 角町集会